

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて

令和7年度

東京都小学校音楽教育研究会

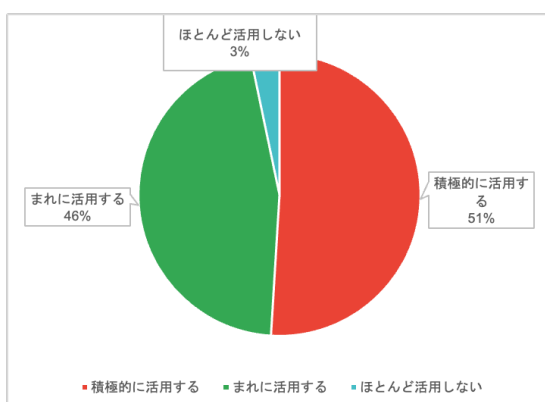
調査部

回答者（523名） ICT活用について.....	2
ICT活用状況.....	2
「個別最適な学び」実践例.....	2
学習活動の工夫.....	2
常時活動.....	3
課題の提示や設定.....	3
学習方法や課題の選択.....	3
振り返りの習慣化と方法の工夫.....	4
活動場所.....	4
教材の工夫.....	5
段階別教材の活用.....	5
デジタル教科書の活用.....	6
フィードバックの工夫と課題.....	6
価値付け.....	6
配慮が必要な児童への支援.....	7
一人一人への丁寧な支援.....	7
日々の児童の様子を見取る.....	8
「協働的な学び」実践例.....	8
学習活動・学習の流れ.....	8
常時活動.....	9
意見の共有や話し合い活動を充実させる指導の工夫.....	9

学習環境.....	10
学習形態.....	10
教材・教具の工夫.....	11
ICT の活用に関する実践.....	11
教師の関わり.....	12
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた実践を行う上で大切にしている、考え方や視点、課題とこれから学びたいこと.....	13
考え方や視点.....	13
課題とこれから学びたいこと.....	15

回答者（523 名） ICT 活用について

ICT 活用状況



「積極的に活用する」と「まれに活用する」がそれぞれ約半数を占めており、ICT の活用はある程度広がっていることがうかがえる。「ほとんど活用しない」と回答した教員はわずか 3%にとどまり、ICT を取り入れていない教員はごく少数に限られている。使い方や活用頻度に違いはあるものの、多くの教員が何らかの形で ICT を授業に取り入れていることが読み取れる。

「個別最適な学び」実践例

学習活動の工夫

- ・プログラミングで音楽づくりをしている。
- ・児童の気付きやつぶやき、記述を基に目標や学習計画を立てさせている。
- ・振り返りを通して自分自身で評価したり課題を見付けたりしている。
- ・個々のボイストレーニングの時間を設定している。
- ・教え合いの時間を設定している。

常時活動

- ・ 基礎的な知識技能を身に付けたり、本時に生かしたりできるような常時活動を取り入れている。
- ・ 常時活動ではアイスブレイクをしたり既習曲を歌ったりして心の解放を促している。

課題の提示や設定

- ・ 児童と本時のめあてや到達目標を確認し、見通しをもたせる導入を行う。
- ・ スモールステップで課題を提示し、達成感を味わうことができるようにしている。
- ・ 課題を短く設定する。
- ・ 器楽分野では児童の実態に合わせて課題を提示している。
- ・ 児童一人一人の実態に応じて課題のレベルや内容を調整し、無理なく達成できるように工夫している。
- ・ リコーダーや鍵盤ハーモニカの学習では、1音だけでまねっこあそびをしたり、一段ずつ練習するなどスモールステップで進めている。
- ・ 児童の実態と意思をつなぎ、課題を設定している。
- ・ 活動内容をホワイトボードで提示し、活動への意欲をもてるようにしている。また、「今どの活動をしているか」を矢印で示している。
- ・ 分かりやすい発問を心掛けている。
- ・ 苦手意識をもつ児童にはフレーズの1拍めだけ演奏する活動を提案する。

学習方法や課題の選択

- ・ 器楽や歌唱の練習では、「一人で」「ペアで」「グループで」など、児童が自分に合った学習形態を選べるようにしている。またペアで聴き合ってお互いのよさを認め合うように声掛けしている。
- ・ 「一人で学ぶ」「友達と学ぶ」「教師と学ぶ」など、自分の課題に応じて練習方法や場所を自由に選択できるようにしている。
- ・ 学び方や使用する楽譜を自己選択できるようにしている。難易度別に分けた教材の中から、児童が自分に合ったものを選んで取り組めるようにしている。
- ・ 課題解決の手段をいくつか提示し、その中から児童が選択できるようにしている。
- ・ 一人一台端末に模範演奏の動画や音源を配信し、児童が①動画や音源に合わせて一人で練習する②友達と関わりながら練習する③動画や音源を使わずに自分のやり方で練習する、など自分に合った方法を選べるようにしている。

- ・鑑賞の授業では、ワークシートや資料を一人一台端末で配布し、児童がそれぞれのペースで学習を進められるようにしている。
- ・ワークシートは紙とデジタルの両方を用意し、児童が好きな方を選べるようにしている。
- ・リコーダーの練習では、自分が練習したい部分を選べるように、譜面を段ごとに色分けしている。さらに、対応する色の洗濯ばさみを付けるなど、視覚的に分かりやすく工夫している。
- ・鑑賞では、一人一台端末に音源を入れておき、児童が自分の気になる箇所をイヤホンで繰り返し聴き、学びを深められるようにしている。
- ・フレーズごとに分けた音源をタブレットに入れておき、児童が自分で取り組みたいフレーズを選んで練習できるようにする。

振り返りの習慣化と方法の工夫

- ・本時の学習のめあてに対して、自分なりのめあてをもたせ、毎時間の終わりに振り返りを行なっている。頑張ったことを価値付けるようにしている。また、できたことや疑問点などを共有するようにしている。
- ・自分の歌や演奏を録画し、それを見ながら振り返る活動を取り入れている。
- ・低学年では、授業の振り返りを「話す→録画する」形式で行っている。
- ・前回の自分と比べてできるようになったことの自覚を促している。
- ・授業の最後に学んだこと、挑戦したこと、できたことを確認し、前時の振り返りを授業冒頭に取り入れるようにしている。
- ・振り返りを一人一台端末上で行い、児童が一つのデータ上で自分の学びの積み重ねや変容、教師からの価値づけをいつでも確認できるようにしている。
- ・授業内容を一人一台端末を活用して配布し、振り返りができるようにしている。
- ・毎回、楽譜や知覚したこと、感受などをスクリーンに映し、視覚的に学習を振り返ることができるようになっている。
- ・振り返りでは、自分が調べたことや感じたこと、工夫したこと、友達の良かったところなどをまとめることのできるシートを活用している。
- ・ノートに、課題に対してどう取り組んだか、またできるようになったかを記録させ、それに毎回コメントを書いて次の学びへつなげている。

活動場所

- ・パート、練習方法、課題によって活動場所を選べるようにしている。
- ・自席ではなく、音楽室内の好きな場所で誰とでも活動する時間を設定している。

教材の工夫

- ・教科書の絵や楽譜を学習支援アプリで配信し、児童が書き込みながら学べるようにしている。
- ・学習の流れを可視化できるワークシートを使用している。
- ・演奏曲の階名を読む活動では、穴埋めプリントを用いて、すべてを最初から読まなくてもよい形式とし、児童が挑戦しやすいよう配慮している。
- ・リコーダー練習用に再生速度を落とした動画を作成し、練習や復習に活用できるようにしている。
- ・音楽づくりでは、学習支援アプリやブラウザ上のソフトを使って、児童の表現の幅を広げている。
- ・箏の学習では、ブラウザ上のアプリを用いて疑似的な体験活動を取り入れている。
- ・読譜力を定着させるために、フラッシュカード形式のサイトを活用し、クイズ感覚で継続的に取り組めるようにしている。
- ・ブラウザ上の鍵盤楽器を使い、木琴や鉄琴など実際の楽器演奏の前段階として活用している。
- ・鑑賞の活動では、リトミック用のスカーフを用いて、苦手意識をもつ児童も主体的に取り組めるようにしている。
- ・ワークシートや活動記録をクラウド上に保存し、児童自身がいつでも振り返ることができるようにしている。
- ・デジタルワークシートを通じて、これまでの学びを蓄積し、継続的に活用できるようにしている。

段階別教材の活用

- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習では、①ドレミ入り伴奏②メロディー入り伴奏③伴奏のみ、という3種類の音源を、①とてもゆっくり②ゆっくり③普通の速さ、というように段階的に準備し、児童が自分に合った音源を選んで練習できるようにしている。
- ・学習の進度に応じて、課題を早く終えた児童には次の課題を提示したり、「ミニ先生」として活動させ学び合いの場を設定するなどの工夫をしている。
- ・伴奏音源を一人一台端末に入れておき、児童が自分の進度や目的に応じて選んで学習できるようにしている。
- ・歌唱の練習では、グループ練習に入る前に、タブレットに①自分のパートの音源②他のパートの音源③ピアノ伴奏の音源を配信し、児童が自分に合った方法で個人練習できるようにしている。

デジタル教科書の活用

- ・デジタル教科書を活用し、旋律づくりやリズム遊びを行なっている。また、交響曲の主題を確かめたり、フレーズごとに聴いたりしている。
- ・合唱のパート練習で活用している。
- ・デジタル教科書を活用し、教科書のどの部分を学習しているか、分かりやすく共有している。
- ・デジタル教科書の伴奏音源を活用し、演奏の様子を把握しその都度指導ができるようにしている。

フィードバックの工夫と課題

- ・即時的にできるようになったことを具体的にフィードバックするようにしている。
- ・個々の変容を見取り、具体的にフィードバックすることを心掛けている。
- ・課題プリントや教科書にサインやコメントを書くなどしている。
- ・振り返りでは、できていないことに対しても取組の過程を言語化してフィードバックしている。
- ・学習支援アプリを活用して振り返りを行い、チェックマークやコメントを送るようにしている。児童からの質問もアプリ上で受け付けている。
- ・フィードバックをできるだけ行うようにしているが、時間的な制約もあり、十分に対応できていないと感じている。また、適切な言葉が見つからず、児童の力をうまく引き出せていないことに悩んでいる。時間ばかりかかって、効果が感じられないという課題もある。

価値付け

- ・褒める、認める声掛けを心掛け、全体に共有するようにしている。さらに、次に目指す目標を児童から引き出すようにしている。
- ・具体的な行動や変容を認める声掛けを行っている。
- ・児童の発言に教師の価値付けを加えるようにしている。
- ・全体によくなったことを共有することもあるが、個人に伝えるだけなど、発達段階や実態にも合わせた指導を心がけている。
- ・学習内容だけではなく、よい取り組み方(学習方法)も価値付けるようにしている。
- ・演奏を録音してクラスで聴いたりした時には、価値付けするようにしている。
- ・児童がそれぞれ立てた目標に達しているか、という観点で見とるようにしている。できた点を褒め、次に生かすような声掛けをするよう意識している。

- ・学習活動と学習のめあての整合性を児童の活動から評価、価値付けしたり意欲を高める学習計画を立てたりしている。

- ・児童間でも価値付けし合えるよう、教師による価値付けは分かりやすい言葉で行う。

配慮が必要な児童への支援

- ・支援が必要な児童は座席に配慮し、全体指導の後に個別に支援をしている。

- ・苦手意識を強くもっている児童には、わずかの伸びでも頑張ったことを励まし、認めるようにしている。

- ・配慮を要する児童には先回りして課題を提示し、安心して授業に向かうことができるようにしている。

- ・技能の獲得が難しい児童に対しては、全体指導後に個別に指導し、些細なことでも褒め、主体性をのばすようにしている。

- ・支援が必要な児童には、個別に指導やスモールステップでの課題を提示している。

- ・見通しがもてず不安になりやすい児童には、「1回目は見ているだけでいいよ。」と個別に声を掛けている。

一人一人への丁寧な支援

- ・個々の課題に応じて、個別指導を丁寧に行なっている。

- ・1時間の授業で必ず全員に個別の声掛けを行っている。個に合った適切な支援、助言を行う。

- ・一人一人をしっかり見取り、励ましたりアドバイスしたり、具体的に評価して伝えたりしている。

- ・個別指導の時間を設け、できていることや課題と一緒に確認できるよう努めている。

- ・一人一人の見取りをしっかりして、個に応じて指導(賞賛するのか、気付かせるのか、助言するのかなど)する。

- ・授業内だけでは対応しきれない場合も多いので、休み時間に音楽室を開放し自由に練習できるようにしている。その際に個別に細かく評価したりアドバイスしたりするようにしている。

- ・机間指導のなかで個別対応する時間を設けるようにしている。

- ・別室にて学習する児童に、短い手紙(授業の内容など)を送り、つながりをつくる。

- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習の時には先生チェックを設け、できるだけ多くの児童に具体的にアドバイスをしている。

- ・定期的に児童と個別に話をする時間を設けることにより、質問があつたり困ったことがあつたときに相談しやすい環境を作るようにしている。

- ・鑑賞のワークシートに文章で記載することが難しい児童には、「速い？遅い？」「明るい？暗い？」など選択肢を与えて書けるようにする。
- ・記述が難しい児童については、口頭で思いを汲み取っている。
- ・高い音域の声がどうしても出ない子に配慮して、低めの調に移調して歌う時間を設ける。
- ・児童一人一人の目標（思いや意図）を把握したうえで演奏や記述に対する言葉掛けを行うようにしている。

日々の児童の様子を見取る

- ・毎日毎時間の児童の様子を記録している。
- ・毎時間記録をとるようにして、できるようになったこと、気になったことを残して指導に活かしていく。
- ・歌唱指導では伴奏を録音で流し、机間指導をしながら一人一人の声を聴く機会をつくっている。
- ・机間指導の記録をできるだけ付け、中間層の児童への指導が不足しないようにしている。
- ・座席表を活用し、必要に応じて発言や学びの過程を記録し、指導助言に生かすようにしている。
- ・学級担任だけでなく、専科同士でも児童の学習の様子を情報共有している。
- ・音楽の時間以外でも児童と関わりをもつようにしている。

「協働的な学び」 実践例

学習活動・学習の流れ

- ・年度初めには、班やペアでの活動を意図的に多く設定し、協働に慣れる機会をつくっている。
- ・グループ活動では、全員が納得して進められるようルールや手順を明確にし、役割や人数の設定も工夫している。
- ・相手意識をもち、他者と関わり合いながら学習を深めることを意識して活動を設定している。
- ・思考、判断を要する場面では、ペアやグループで意見を交流し合いながら学びを深めている。
- ・前後左右の人と意見交換する時間を設けている。
- ・活動では、グループごとに聴き合いや振り返りを取り入れ、表現や気付きの共有を促している。

- ・リズムや器楽など技能系の学習では、個→ペア→グループ→全体という段階的な活動の流れを取り入れている。
- ・低学年のリズム活動では①一人でリズムを手で打つ ②友達とペアで手を打つ ③ペアを変えながら手を打つという段階的な活動の流れを取り入れている。
- ・器楽の活動では、一人で学習する、ペアで学習する、数人でグループを作って学習する、などの選択ができるようにしている。
- ・音楽づくりでは、個人で考えた後にグループで表現を練り上げることで、主体的な参加を促している。
- ・ペア活動では、演奏の確認やチェック、意見交換を通して学び合いを促進している。
- ・個で考えた後に、ペアやグループで意見を伝え合い、さらに学級全体で共有する流れを意識して授業を構成している。
- ・課題に応じてグループ分けを行い、互いに教え合う場を設けている。
- ・心の解放のために授業導入でのドラムサークルを行う。
- ・「めともこ」などの振り返り（め...めあてに対する振り返り と...友達と協働的に学んだことの振り返り、も...もっとやりたいこと こ...これからに生かしたいこと）を取り入れ、学びの定着と協働の意識付けを行っている。
- ・歌唱や器楽の表現活動では、学級を分けたり、グループ発表の機会を設けたりして、互いに学び合う機会を確保している。
- ・ハンドサインやチェックシートを活用し、聴き合いや評価の場面を工夫している。
- ・学びの形態や人数、相手を柔軟に変えながら、多様な関わりを日常的に取り入れている。

常時活動

- ・常時活動では「いつでもどこでも誰とでも」をキーワードにいろいろな人と関わりながら学習に向かう気持ちを高めている。
- ・本時の内容に合った身体的活動を授業の始めに取り入れている。友達と声を掛け合い、誰とでも一緒に活動できる雰囲気をつくる。
- ・ペア活動を毎回必ず取り入れている。
- ・学級の誰とでも温かく、楽しく関わって学習できるようにしている。身体を動かしながらグループを作り、手遊び、手合わせ、肩叩き等、触れ合える活動を取り入れている。

意見の共有や話し合い活動を充実させる指導の工夫

- ・ワークシート記入後は発表の時間を設けたり、意見を拡大楽譜に書き込んで掲示したりして、全体での可視化、共有につなげている。
- ・感想や意見を書いた後は、近くの人と共有するなど、無理なく話し合いが始まる工夫をしている。
- ・ペア、グループ活動を適宜設定し、児童同士の学び合いや相互理解を促進している。
- ・ペアでの話し合いを経て相手の発言を紹介する場面を設けることで、他者の考えに気付いたり、伝える力を高めたりしている。
- ・グループ活動の導入時には、考えの伝え方・話し合い方の型を示している。
- ・同じ児童ばかりが発言しないように、ペアで意見を整理してから全体で発言させるなどの工夫をしている。

学習環境

- ・児童の実態（音楽的な力・人間関係・リーダーシップ）を考慮し、席やグループを意図的に設定している。
- ・ペアや小グループで活動しやすいように、机や椅子の配置を工夫している。
- ・教室や音楽室では、扇形・コの字型・円形などの座席配置を取り入れ、互いに見合って聴き合えるようにしている。
- ・視覚的にもグループを意識できるよう椅子にリボンやテープで色分けをしたり、自由に動かせるようにしたりして、グループ活動がスムーズに行えるよう配慮している。
- ・高学年では題材ごとに席替えを行い、活動内容に応じてペアやグループを柔軟に設定している。
- ・活動の種類によって、机の有無や使用教室（音楽室／通常教室）を選択している。
- ・話し合いの場面では、児童が落ち着いて関われるよう、床に座る、丸くなるなどの工夫も取り入れている。
- ・譜面台を使ってグループごとの活動や視線の集中を助けている。
- ・教師が座席の組み合わせを調整することで、児童が安心して活動できる環境をつくっている。

学習形態

- ・学習形態は児童の実態や課題に応じて、個人、ペア、グループ、全体などを柔軟に使い分けている。
- ・ペアやグループは安心して発言できるよう固定したり、人数や役割を工夫したりして、全員が参加しやすい環境作りを行っている。

- ・活動が円滑に進むよう、人間関係にも配慮しながら、担任と連携してグループを決めている。
- ・低学年の鍵盤ハーモニカの活動では得意な児童と苦手な児童がペアを組んで学び合う工夫を取り入れている。
- ・学習内容の共有や活動のねらいを明確にしながら、1時間の授業の中でも適宜形態を変化させて学びを深めている。

教材・教具の工夫

- ・グループに1枚ずつホワイトボードを配布し、話し合いや意見の整理に活用している。
- ・話し合い活動を円滑に進めるためのワークシートを活用している。
- ・学習内容や活動の進め方が理解しやすくなるよう、ワークシートを活用している。
- ・グループで話し合った内容を書き込めるよう、拡大楽譜を用意している。
- ・ワークシートをラミネートし、書いたり消したりしながら繰り返し使えるようにしている。
- ・付箋を使って模造紙に意見を貼り出し、異学年の学習にもつながるように工夫している。

ICTの活用に関する実践

- ・学習支援アプリやオンラインホワイトボードを活用し、意見の共有やグループごとの意見整理、共同編集を行っている。
- ・児童の発言や演奏をスクリーンや電子黒板で映し出し、クラス全体で共有・振り返りができるようにしている。
- ・演奏を録音・録画し、自分や友達のよさを見付けたり、コメントを通して次の目標を立てたりする時間を設けている。
- ・グループ専用のワークシートを使って活動内容を記録し、題材の最後には動画を用いた全体の振り返りの場を設定している。
- ・穴埋め式の文を一人一台端末に提示して、自分の思いや意見を言葉にして伝える支援を行っている。
- ・楽譜作成ソフトで作った音源を用いた個別練習や、音楽づくりアプリによる創作活動を行い、成果もブラウザ上で共有している。
- ・一人一台端末を活用してワークシートや振り返りを記録し、他者の意見も参照しながら学びを深めている。
- ・意見は色分けや付箋機能で視覚的に整理・分類し、話し合いや振り返りに生かしている。
- ・鑑賞の場面では分配器を活用し、同じ音を聴いて対話する活動を取り入れている。

- ・音程が不安定な児童には、教師が指摘するのではなくオンラインチューナーを用いて自分で確認・修正できるようにしている。

- ・学習支援ソフトの共有機能や共同編集機能で他の児童の意見を見たり、コメントを書いたりしながら、個々の実態に応じた深まりのある学習を実現している。

- ・デジタルツールを活用した意見共有や個別練習と、実際に対面で行う合奏・話し合い活動などを組み合わせ、リアルとデジタルのよさを生かしたハイブリッド型の学びを取り入れている。それにより、児童同士が自然に関わり合い、協働的な学びが深まるよう工夫している。

教師の関わり

- ・児童の気持ちに寄り添った言葉掛けを意識している。

- ・よかった点は児童を手本に、改善が必要な点は教師が見本を示すことで、互いに認め合える関係づくりを意識している。

- ・多様な意見や思いを大切にすることを伝えている。また、自分の意見を伝えやすい雰囲気、一生懸命を笑わない雰囲気作りを心掛けている。

- ・グループで交流する時のルールを提示し、それぞれのグループに声掛けをしている。

- ・意見交換の場では、同じ考えや共感したことには拍手やうなずくなどの反応を示すよう伝え、話す側だけでなく聴く側も積極的な学びの場となるよう、声掛けをしている。

- ・活動の間に必ず確認する場面を設定する。教師が意図的に活動内容を確認したり、見本となる活動をしているグループに発表を促したりしている。

- ・教師が児童一人一人のよさを見付けて伝えている。

- ・日々の児童の様子を見取り、伝えていくことで、自己肯定感を高めると共に、友達のよい所にも目が向くようにしている。

- ・歌唱や演奏の発表では、結果だけでなく、努力や主体的な取り組みにも価値があると認める雰囲気づくりを大切にしている。

- ・意見の発表や少人数での演奏のあとには、全体で拍手を送ったり価値付けしたりするようにしている。

- ・ペアやグループの活動を行う前に、これからの活動で何をを目指すのかを問いかけ、目的を共有してから活動に入る。ペアやグループでのよい活動の姿を価値付けたり全体に共有したりして、友達との関わりの中で楽しく学ぶことができることを目指している。

- ・児童の発言が教師とだけのやりとりにならないように、全体に「問い返し」を行い、児童同士が考えを広げていくことができるようにしている。

・児童同士がよかったところや改善点などを伝え合い、学習のめあてに向かえるように、教師が適切な方向付けをしながら、ファシリテートする。

・グループ活動が停滞している時には「今どのような状況なのか」を問いかけ、児童が自分たちの状況を確認した上で話し合いができるようにしている。きっかけを与えることでどのように活動をすればよいかを児童が考えられるようにしている。

・高学年では、教え込みすぎず、児童に任せる時間を意識的に取り入れている。

・内容が同じであっても、自分の感じたことや考えたこととして言葉にするよう促している。

・児童の発言を板書する際は、名前も書いて意見を大切にしていることが伝わるようにしている。

・話すことが苦手な児童には筆記や一人一台端末、個別の聴き取りで考えを引き出している。

・グループ活動後は、自分の意見がどう変わったか、気付くことができるように促している。

・グループ活動の後にはよかった意見を紹介し、友達の考えも知ることができる機会を設けている。

・聴き合いの時には、聴く視点や活動のめあてを明確にしている。

・ペア→全体の後、それぞれの児童の思考をつなぎ広げるよう声をかける。

・どの意見でも取り上げるようにしているが、意見の交通整理をして、何に関しての意見なのかきちんと整理するようにしている。

・音楽のことは（授業の中での共通認識）を増やすよう、児童の言葉を全体に広げて日常的に使っていくようにしている。児童のつぶやきや行動を価値付けたり、共有したりして学習につなげるようにしている。

・児童同士の意見をつなげ、いろいろな人が意見を出し合うことによるよさを伝えるようにしている。グループの中で1人1回は発言をして、自分の考えを伝えるよう声を掛けている。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた実践を行う上で大切にしている、考え方や視点、課題とこれから学びたいこと

考え方や視点

・個別最適な学びでは段階的にレベルアップできる課題を用意し、協働的な学びでは互いに助け合い、刺激し合えるような環境づくりを大切にしている。

・個別最適な学びの過程で生まれた児童の意見を、協働的な学びに生かすために、言語化を促している。個の学びと集団の学びをつなげる意識をもって指導している。

・ウェルビーイングが重視される今、一人一人が安心して学びに向かい、他者と関わりながら成長していくことは、これまで以上に重要な学びであると考えている。

・音楽は技能習得に個人差があるため、個別最適な学びを進めることで、児童が自分のペースで学びやすくなると考えている。特に一人一台端末の活用が、その取り組みを後押しすると期待している。

・個々の力と周囲の関わりが交わる中で試行錯誤する過程に価値があり、その中で自らの成長や協働の喜びを実感できるような学びを目指している。

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の意味を学校全体や授業者自身が共有し、明確にしたうえで取り組むことが、実践の質を高める上で重要であると考えている。

・「個別最適な学び」も「協働的な学び」も、いずれも児童一人一人の力を伸ばすことが目的であると捉えており、学びの形式にかかわらず、「確かな学力の伸び」を軸にカリキュラムマネジメントを行っている。

・「個別最適な学び」は教師による課題設定、「協働的な学び」は集団づくりの工夫が鍵だと感じている。どちらも大切にしながら進めていくには、まだまだ自分自身の授業づくりの力を高めていくことが必要だと実感している。

・一斉指導、個別指導、グループ学習といった多様な学習形態を適切に使い分け、バランスよく授業を構成することを意識している。

・限られた授業時間の中で、「個別」と「協働」の両方の学びが効果的に行えるよう、時間配分に意識的に配慮している。

・「できた！」という達成感をもてるような授業を目指している。友達との関わりの中で学びが深まったことに気付けるように、場面に応じて声掛けを工夫している。

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図る上で、児童が課題をいかに「自分事」として捉えるかが重要である。

・グループでの活動を経てから個人で課題に取り組むようにすると、児童が見通しをもって活動できるようになり、自分なりの工夫をしようとする姿も見られるようになってきた。

・鑑賞においては、感受したことを出発点とし、その根拠を見付けていく学習の流れにすることで、個別最適な学びと協働的な学びが一体となりやすいと感じている。

・個別と協働の学びを行き来させながら、相互に作用させて学びを深めていくことを重視している。実践を積み重ねる中で、学習内容に応じた形態や ICT の効果的な使い方が見えてくると考えている。

・児童一人一人の学びの様子を丁寧に見取りながら、必要に応じて声を掛けたり支援したりしている。そのうえで友達との関わりを大切にした活動も積極的に取り入れることを大切にしている。

・個別最適な学びと協働的な学びは切り離せない関係にあり、児童一人一人を大切にすると同時に、仲間とともに学んでいくことの両方を大切にしながら授業を進めている。

・児童一人一人の特性や価値観を踏まえながらも、音楽の授業では、友達と声や音を合わせることの喜びや美しさを伝えていきたいと考えている。個別最適な学びで自信をつけた児童が、その力を協働的な学びへとつなげていく姿を目指したい。

・協働的な学びを通して児童同士が互いを理解し、得意不得意を認め合いながら助言し合える関係を築くことで、個別最適な学びと協働的な学びの両立が可能になると考えている。

・学びが一部の発言力のある児童だけで進んでしまわないように、一人一人の思いや能力に配慮することを大切にしている。また、「仲間と学んだからこそ深まった」と児童自身が実感できるような学びの展開を意図的に構成している。

・個別最適な学びと協働的な学びのいずれかに偏るのではなく、1時間の授業の中で両方の場面を取り入れ、それぞれが積み重なっていくよう意識している。

・児童一人一人への丁寧な関わりと併せて、友達の考えを受け止めたり理解したりする力も育てていきたい。そのために、協働的な学びを少しずつ取り入れながら、技能の習得にもつなげられるよう工夫している。使う教材は厳選して、無理なく進められるようにしていきたい。

・児童一人一人の考えや学びのプロセスを丁寧に見取り、それぞれのよさや課題に応じた関わりができるよう意識している。

・協働的な学びを継続的に積み重ねていく中で、児童一人一人の力も伸ばしていくことを重視している。

・児童同士で協力して解決する力を身に付けさせようと考えている。器楽等が得意な児童に少し苦手意識をもっている児童と演奏をしてもらうなどを積極的に行いたい。

・ICTを活用しながら個別・協働の学びを実践し、取り組みを広げていきたいと考えている。また、実践例の共有を積極的に行うことで、学びの質をさらに高めていきたい。

・個別最適な学びでは自分のやり方や関心を大切に、協働的な学びではその違いを活かして学びを広げることが重視している。

・教える場面で児童全員が同じ知識を得た状態から、協働的な学びの学習に取り組むことができるようにすることを意識している。

課題とこれから学びたいこと

・自身の授業において、個別最適な学びや協働的な学びが実現できているのか、明確に判断することが難しい。児童の姿や授業の流れをどのように捉えればよいのか、指標や視点の設定について課題を感じている。

・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進める中で、どのように場面を設定し、児童の変容を価値付けながら見取り記録していくかについて、検討していきたい。

- ・苦手意識をもつ児童が安心して取り組めるよう個別の支援をするとともに、協働的な学びにつなげる方法や個と集団のバランスの取り方について考え、取り組んでいきたい。
- ・歌唱活動において協働的な学びを充実させていきたい。
- ・個別最適な学びを充実するために、児童理解をより深めていくことを課題として取り組んでいる。
- ・活動内容に応じて個人・ペア・グループなどの学習形態を設定している。活動の内容に応じたグルーピングや声掛けについて、さらに効果的な方法を模索している。
- ・全員参加の授業を心掛け、教材選択や個々の能力に合う課題の提示、スモールステップで進めるなど、指導の工夫を心掛けている。教材の精選や限られた時数の中で、何を重点とするか考え、実践することが難しい。
- ・児童の多様性が広がっているため、個別の対応や配慮が重要になっている。また、児童の技能差も大きく、グループ活動の進め方にも工夫が必要である。すべての児童にとって意義のある課題を設定できるようにしたい。
- ・協働的な学びを深い学びにつなげるための方法を学びたい。
- ・音楽室の広さや環境に制約がある中で（普通教室のすぐそばが音楽室）、パート別・楽器別の練習・グループごとでの音の確認などの活動の場をどのように設定していくか、工夫していきたい。
- ・勤務地によって ICT 環境は多様であるが、その中でできる工夫を重ね、実践の幅を広げていきたい。
- ・グループ活動をより活性化させるために、状況に応じた具体的な声かけや関わり方の工夫を学びたい。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの両面において、児童一人一人の成長や関わりの様子をどのように評価していくかについて、検討していきたい。
- ・話し合い活動では、児童の関わり方や音楽経験、学級での人間関係等により、意見の出し方に差が生じ、活動が停滞することがある。一人一人が生き生きと取り組める活動や支援の工夫について学びたい。
- ・音楽科における指導の個別化と学習の個性化について児童の実態等に応じ考えていく必要を感じている。児童一人一人の学習ニーズを踏まえ、学習を深め広げながら学習目標に到達できるようにしたいと考え、指導方法を模索している。
- ・協働的な学びはイメージしやすいが、個別最適な学びは方法の具体化が難しい。授業の中で個別最適な学びをどう展開するか、学びたい。

本資料は、回答内容をもとに、趣旨を損なわない範囲で実践例や考え方・課題を整理・要約したものです。
類似する内容はまとめて掲載しています。
ご了承ください。